1Aa-4

調理済み・半調理済み食品の利用状況とイメージ
ー宅配夕食材料についてー

○高橋 洋子（新潟大）、勝田 啓子（奈良女大）

目的：　食生活の変化を探る指標の１つとして、調理済み・半調理済み食品をとりあげ、それらの利用状況とイメージを尋ねるアンケート調査を、'90年、'93年、'96年に行った。本発表では、上記３回の調査のうち、比較的新しい食品購入形態である宅配夕食材料に関する部分をとりあげ、その利用度とイメージの関連などについて検討することとした。

方法：　３回の調査とも郵送法で行い、利用については、【a.経験なし、b.経験はあるが現在は利用していない、c.利用している（週1～2回・週3～4回・毎日）】の５つの中から選んでもらった。イメージは、'90年に自由記述式で、'93年に尺度法【便利度・値段・品質衛生・汎用性・好感度の５項目について、各々－３点から＋３点までの７段階評価】で調査した。調査地は新潟と東京（'90年は新潟のみ）、対象は大学生の母親と幼稚園児の母親（'90年は大学生の母親のみ）であった。

結果：　'93年調査の回答者を、利用度によって【a群:利用経験なし(n=374)・b群:利用経験はあるが現在は利用していない(n=97)・c群:利用している(n=26)】の３群に分けて、各群の項目毎のイメージ尺度点数によって、２つの群の間で平均値の差による検定を行ったところ、次のような結果が得られた。(1)a群とb群の間→汎用性についてb群の方が評価が高く、危険率5%で有意差が認められたが、他の項目については有意差は認められなかった。(2)b群とc群の間→どの項目についてもc群の方が評価が高く、便利度・汎用性・好感度は危険率1%で、品質衛生は危険率5%で有意差が認められた。値段は、c群において平均点が0点に満たなかった唯一の項目で、b群との間に有意差は認められなかった。